




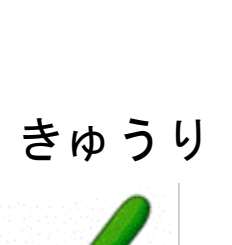



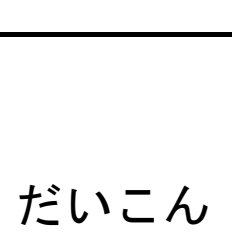
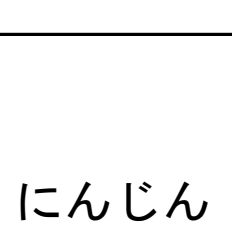


野菜の需給・価格動向レポート(平成27年2月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格情報				2月 平均価格	生育及び価格の2月までの見通し			
	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額								
	上旬	中旬	下旬						
葉 茎 菜	キャベツ 	88.05	115	108	103	88.05	・入荷見込量: 13,840 (100) ・主産地: 愛知 (60)、千葉 (20)、神奈川 (14)	・愛知産は、1月下旬の降雨と気温高により結球が進んだことから、引き続き平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、最近の低温などにより小玉傾向で、現在は平年より少なめの出荷となっているが、今後は次期作が出荷されるため平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、低温と少雨により小玉傾向で、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
		83.73	102	95	93	83.73	・入荷見込量: 3,700t (90) ・主産地: 愛知 (52)、大阪 (10)、兵庫 (8)、和歌山 (8)	・千葉産及び神奈川産の出荷が、平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれるものの、主力の愛知産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、平年並み若しくは平年を下回って推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	229.99	252	196	206	229.99	・入荷見込数量: 4,440 (105) ・主産地: 千葉 (41)、埼玉 (25)、茨城 (13)、群馬 (9)、輸入 (3)	・千葉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の発生が多く見受けられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、病害虫の発生はなく、生育は順調で引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		450.51	582	428	397	450.51	・入荷見込数量: 200t (97) ・主産地: 徳島 (32)、高知 (18)、奈良 (14)、香川 (9)、三重 (6)	・埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産及び茨城産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	はくさい 	61.12	38	34	39	61.12	・入荷見込量: 13,020t (100) ・主産地: 茨城 (51)、兵庫 (20)、群馬 (17)	・茨城産は、生育は順調で豊作基調となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、生育期の天候に恵まれたことから、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		68.70	56	49	57	68.70	・入荷見込量: 4,400t (87) ・主産地: 愛知 (31)、宮崎 (24)、兵庫 (13)、鹿児島 (10)、長崎 (8)	・茨城産及び兵庫産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	ほうれんそう 	307.66	709	541	519	307.66	・入荷見込量: 1,550t (105) ・主産地: 茨城 (26)、群馬 (23)、千葉 (22)、埼玉 (16)	・茨城産は、生育は概ね順調で作付面積の増加もあり、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、病害虫の発生はなく、生育は順調で現在は平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は天候に恵まれることから、平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、低温により生育の停滞が見られたものの、日照時間の増加などに伴い徐々に生育は回復し、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		341.25	727	539	532	341.25	・入荷見込量: 670t (104) ・主産地: 徳島 (51)、福岡 (34)	・茨城産、群馬産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
	レタス (結球) 	233.85	347	243	237	233.85	・入荷見込量: 6,960t (98) ・主産地: 静岡 (32)、香川 (12)、兵庫 (8)、千葉 (8)、福岡 (6)、熊本 (5)	・静岡産は、現在は平年並みの出荷まで回復しているものの、今後は昨年10月末から11月上旬の多雨により定植に遅れが出たほかからの出荷となることや、一部のほ場で病害が発生していることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、一部で風害は見られるが、降雪もなく品質は総じて良好であるため、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、気温高により一部で病害が出始めているが、生育は概ね順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		226.75	365	245	240	226.75	・入荷見込量: 1,000t (88) ・主産地: 兵庫 (42)、徳島 (23)、長崎 (13)、香川 (12)	・兵庫産及び香川産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷と見込まれるものの、主力の静岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。	
	たまねぎ 	76.15	82	85	90	76.15	・入荷見込量: 10,230t (102) ・主産地: 北海道 (74)、輸入 (5)	・北海道産は、選別・調製を終えて倉庫に保管されて、計画的な出荷が行われており、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。	
		76.15	91	89	94	76.15	・入荷見込量: 3,600t (88) ・主産地: 北海道 (63)、兵庫 (22)、静岡 (10)	・北海道産は、計画的な出荷が見込まれることから、現在平年をやや上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
果 菜	きゅうり 	370.98	411	384	399	370.98	・入荷見込量: 4,410t (98) ・主産地: 宮崎 (31)、千葉 (21)、高知 (15)、群馬 (14)、茨城 (9)、埼玉 (4)	・宮崎産は、病害虫の発生はなく、全体的に生育は概ね順調であるが、低温と曇天に加え、作型の切替もあることから、引き続き平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、1月下旬の日照不足などにより現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。高知産は、病害虫の発生もなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		350.33	378	348	379	350.33	・入荷見込量: 1,000t (93) ・主産地: 宮崎 (42)、徳島 (19)、高知 (18)、愛媛 (8)、佐賀 (7)	・宮崎産、千葉産及び高知産の出荷が、平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	332.60	326	333	359	332.60	・入荷見込量: 4,980t (100) ・主産地: 熊本 (38)、栃木 (17)、愛知 (12)、宮崎 (5)、千葉 (4)、静岡 (4)、福岡 (3)、群馬 (3)	・熊本産は、病害虫の発生もなく生育は順調で平年並みの出荷であるが、今後は作付面積の増加に加え、春作の出荷の増加が見込まれるため、平年よりやや多めの出荷の見込み。栃木産は、最近天候に恵まれ病害虫の発生もなく、生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、例年この時期は作型の切替で数量が減少するが、作付面積の増加もあり、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		311.06	322	326	348	311.06	・入荷見込量: 880t (88) ・主産地: 熊本 (67)、福岡 (11)、愛知 (7)	・熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、現在平年をやや上回っている価格は、平年並み若しくは平年を下回って推移する見込み。	
	なす 	389.03	428	404	419	389.03	・入荷見込量: 1,930t (98) ・主産地: 高知 (62)、福岡 (19)、佐賀 (5)	・高知産は、最近の冷え込みの影響で肥大が抑制されて、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、全体的に生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。福岡産は、12月の低温、曇天の影響で平年よりやや少なめの出荷であるが、最近日照量も多く花数が回復しているため、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		397.74	402	391	409	397.74	・入荷見込量: 360t (92) ・主産地: 高知 (41)、熊本 (27)、福岡 (20)、岡山 (8)	・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
	ピーマン 	551.24	671	661	677	551.24	・入荷見込量: 1,290 (100) ・主産地: 宮崎 (46)、高知 (22)、茨城 (15)、鹿児島 (15)	・宮崎産は、大きな天候の崩れもなく安定しているため、病害虫の発生はなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、現在出荷の谷間で平年よりやや少なめの出荷であるが、生育は順調なことから、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		513.91	591	602	632	513.91	・入荷見込量: 300t (80) ・主産地: 宮崎 (45)、高知 (29)、鹿児島 (9)	・宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
	根 菜	だいこん 	79.03	80	68	82	79.03	・入荷見込量: 12,060t (100) ・主産地: 神奈川 (57)、千葉 (27)	・神奈川産は、低温と少雨の影響で小ぶり傾向で平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、最近の低温により生育が停滞気味ではあるが概ね順調であり、引き続き平年並みの出荷の見込み。
			80.47	75	65	70	80.47	・入荷見込量: 3,600t (104) ・主産地: 鹿児島 (29)、長崎 (29)、徳島 (27)、和歌山 (7)	・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年を上回って推移する見込み。
		にんじん 	101.05	82	70	71	101.05	・入荷見込量: 6,340t (105) ・主産地: 千葉 (69)、埼玉 (5)、茨城 (4)、輸入 (2)	・千葉産は、正品率が高く潤沢な出荷となっていることから平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。
	104.73		86	76	70	104.73	・入荷見込量: 2,700t (109) ・主産地: 鹿児島 (71)、長崎 (16)、鳥取 (7)	・千葉産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	

種類	1月の価格情報					2月 平均価格	生育及び価格の2月までの見通し
	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格						
	上旬	中旬	下旬	平均価格			
いも	さといも	217.95	262	247	222	217.95	・入荷見込量：570t (101) ・主産地：千葉 (39)、埼玉 (32)、輸入 (5)
		219.65	262	214	214	219.65	・入荷見込量：94t (-) ・主産地：愛媛 (51)、輸入 (17)、宮崎 (14)、熊本 (9)、鹿児島 (5)
	ばれいしょ	88.17	91	91	91	88.17	・入荷見込量：9,070 (102) ・主産地：北海道 (64)、鹿児島 (20)、長崎 (16)
		88.17	84	85	84	88.17	・入荷見込量：3,400t (83) ・主産地：北海道 (53)、鹿児島 (34)、長崎 (13)

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもの大阪は前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

年	生鮮野菜の購入数量及び購入金額 (1人当たりの購入数量と購入金額)							
	過去5か年平均		平成25年		平成26年		前年比	
	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)	前年比 (%)	前年比 (%)
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	1,775	103	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	1,742	102	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	1,878	100	106
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	1,887	97	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	1,993	98	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	1,976	95	104
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	1,770	102	99
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	1,846	97	106
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	2,035	104	109
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	5,455	1,973	104	92
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	5,291	1,704	109	104
12月	5,142	1,882	5,152	2,093	5,233	1,977	102	94

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」  
注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

月	主要野菜の小売価格(東京都区部)				
	キャベツ		レタス		
	過去5か年平均	平成27年	5か年比 (%)	過去5か年平均	平成27年
1月	212	230	109	684	826
2月	222			631	121
3月	205			500	
4月	243			453	
5月	163			365	
6月	137			317	
7月	160			332	
8月	138			400	
9月	158			591	
10月	174			469	
11月	164			429	
12月	172			546	

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5か年平均は、平成22～26年の平均。  
2 平成27年1月の値は、1月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

12月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比74%の7万1千トン、加工野菜は同88%の14万6千トン、野菜全体は、同83%の21万6千トンとなった。このうち中国産野菜合計は85%の12万6千トンとなった。

生鮮野菜、加工野菜ともに前年を大幅に下回ったことから、野菜全体においても前年を大幅に下回った。

区分	野菜の輸入数量 (単位：トン、%)			
	平成24年	平成25年	平成26年1～12月	平成26年12月
	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比
生鮮野菜	946,920	854,042	884,752	70,528
加工野菜	1,909,670	1,854,162	1,784,905	145,658
野菜合計	2,856,590	2,708,205	2,669,658	216,186
うち中国産野菜合計	1,458,402	1,415,762	1,409,102	125,918
中国産シェア	51	52	53	58

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」

品目	輸入先	主な野菜の輸入数量 (単位：トン、%)		
		平成25年12月(A)	平成26年12月(B)	(B)/(A)
		合計	中国	米国
たまねぎ	合計	36,753	26,700	73
	中国	28,361	23,598	83
	米国	8,348	3,057	37
にんじん	合計	9,069	5,057	56
	中国	8,977	5,001	56
	米国	43	42	97
ねぎ	合計	4,833	4,677	97
	中国	4,830	4,675	97

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年12月は速報値。

## 4 トピック — スーパーにおける冷凍野菜の品目別販売動向 —

今回は、総合スーパーと食品スーパーのPOS情報(販売時点情報管理、平成22～25年度)を活用して当機構が行った冷凍野菜小売販売動向調査の概要を紹介する。

平成25年度の来客千人当たりの品目別(野菜名称のある冷凍農産素材および冷凍調理食品)の販売金額をみると、ばれいしょ、えだまめ、混合冷凍野菜、ほうれんそう、かぼちゃの上位5品目で全体の70%以上を占め、これら5品目にコーン、さといも、ブロッコリー、いんげん、茶豆を加えた10品目で91%を占めている。

また、同販売金額は、平成22年度の3,381円から平成25年度の4,053円へと4.5%増加しており、その品目別の増減寄与度をみると、ほうれんそう(寄与度：+1.9%)、混合冷凍野菜(同：+1.8%)、ブロッコリー(同：+1.2%)が伸びている。

さらに、これら3品目の販売金額は、それぞれ、30%、26%、51%増加しているが、販売金額と販売個数の動向はほぼ同じであり、個当たりの平均単価はほぼ安定しているとみられる。

また、混合冷凍野菜の中では、いわゆるミックスベジタブル(コーン、にんじん、グリーンピース等)の増加率(10%)に比べて、和風、洋風の野菜ミックスの増加率(65%)が高くなっている。

これら品目の販売が堅調な要因としては、調理の簡便性や食品ロス削減の観点から冷凍野菜に共通する利点に加え、お弁当向けや朝夕食(和食、洋食)向けの具材としての汎用性、使い勝手の良さなどが考えられる。

昨年10月20日付けの当トピックス「最近の冷凍野菜の需要動向」の中でも指摘しているように、最近では中高年齢世帯の冷凍調理食品の家計消費支出が堅調であることもあり、これら品目別の冷凍野菜の販売動向の特徴も踏まえた原料野菜の国産供給体制づくりが重要である。

なお、調査結果の報告書は、近日中に当機構HPに掲載する予定である。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜供給部 供給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の供給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の供給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。

25年度 千人当たりの販売金額の品目別割合

ほうれんそうの千人当たりの販売金額と個数の推移

混合冷凍野菜の千人当たりの販売金額と個数の推移

ブロッコリーの千人当たりの販売金額と個数の推移

注1：野菜名称のある冷凍農産素材は、JICFS分類の冷凍農産素材のうちフライドポテト、加熱やカットなど簡便な加工をしたものである。  
注2：冷凍調理食品は、野菜名称のある調理食品、野菜を使用した調理食品である。  
注3：品目別データの抽出は、冷凍野菜および野菜名称のある冷凍調理食品を対象とした。  
注4：収集したPOSデータは、(株)KSP-SPのものであり、全国のスーパーマーケット(中型総合スーパー、食品スーパーの150チェーン約951店舗)を対象としている。